

LINN LP-12 の再構成(37) (HP 収載)

1. はじめに

前報(36)において LINN LP-12 のフォノケーブルのバランス化などの効果の確認ができましたので高音質盤を聴いてみます。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

LINN LP-12 の再構成の実施内容は、前報(35)のとおりです。

前報(35)の対策の確認を下記音源で行います。これらは、別途報告する

ThorensTD124 の再構成(2)でも使用するものです。

ダイレクトカットイング 33 回転盤

BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS KKC-1167/8

ブルックナー 交響曲 7 番

ベルナルド・ハイティンク指揮ベルリンフィル

ダイレクトカットイング 45 回転盤

ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3

スメタナ 我が祖国

ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

SOMETHIN'COOL SCLP-1055

ミスティ

TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO

45 回転盤

ドイツグラモフォン 4864177

ウジェーヌ・イザイ 6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

ブルックナーの交響曲 7 番は、ハイティンクの引退公演のライブ演奏をダイレクトカットイングで収録したものです。ブルックナーらしい爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の、この曲を細部に至るまで緻密に表現しながら展開していくことは、ThorensTD124 の再構成(2)の Ortofon SPU Royal N でも同様ですが、弱音から強奏までのダイナミックレンジの広い曲ですので、静寂感の中から音楽が沸き上がるような印象は、より強く感じ、ダイレクトカットイングならではの迫力のあるライブ感を味わえることができます。

スメタナの我が祖国は、モルダウを聴きましたが、爽やかな木管と弦のささやきから、

ハーブなどの彩を交えながら展開し、終章の爆発的な盛り上がりまで、ThorensTD124の再構成(2)のOrtofon SPU Royal Nと同様ですが、より緻密な表現になっており、強奏でも音像が崩れず、濁らず、最後まで緊張感が持続します。ミスティは、ピアノのクリーンなアタック感、全般的なリズム感などは、ThorensTD124の再構成(2)のOrtofon SPU Royal Nと同様ですが、さらにピアノのアタック感が強く、響きが豊かで、ベースの量感と切れもあります。イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタは、高音もよく伸び、ピチカート之余韻もしっかり聴き取れ、スリリングなボウイングの様子が再現されることは、ThorensTD124の再構成(2)のOrtofon SPU Royal Nと同様ですが、さらにボウイングの力強さやヴァイオリンの音色の細部の隅々や胴鳴りまで表現されており、生々しさが尋常ではありません。以上のすべてに言えることは、前報(35)や前報(36)と同様、静寂感がフォノケーブルのバランス化以前と違ってきていることです。

4. まとめ

フォノケーブルのバランス化を主要な対策として、ターンテーブルのメカ強化やモーターの電流強化、アースアキュライザーをAVドーナッツに通したこと、ベルト交換などの総合的な効果が、高音質盤の再生でも認められました。

以上